



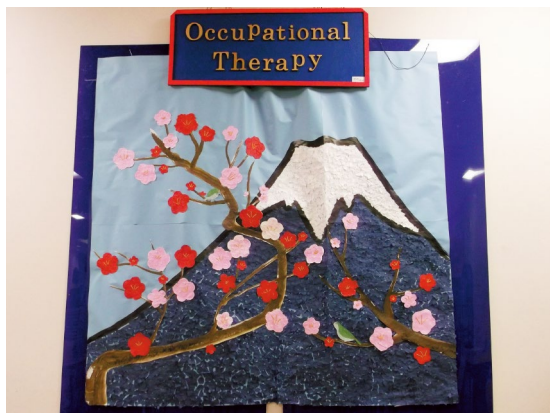
脳梗塞発症後、右手が元通りになることに一生懸命であった尾高様に、「絵を描いてみませんか?」と提案し、3つの花瓶を描いていただいたのがきっかけでした。旅館を営み、旅行に出かけられるのが楽しかった尾高様の描かれる絵は、優しいお花の絵が多く、時には記憶の中の風景が描かれることもあります。失語症のため会話が不自由ですが、「もう次の描きよん?」「ええ色じゃなあ」と他利用者様も立ち止まり、会話が始まります。絵を描くこと、作品を通じて、つながりが広がっていきます。

この作品は、他利用者様が撮影した写真をもとに描かれました。色鉛筆で繰り返し色を重ね、温かく優しいタンポポが仕上がりました。現在では、歩行練習と色鉛筆画が尾高様のオキュペイションとなっています。(担当 OT: 森安紀子)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



初台リハビリテーション病院 入院・外来患者様「富士山と梅」

当院作業療法室には『四季の壁』というものがあります。毎月季節に合ったテーマを決め、さまざまな道具や方法を用いて壁を飾っています。黙々とつくり続ける方、自分のつくった所を自慢する方、同席した方と会話を楽しみながらつくる方、もっぱらセラピストへの指示出し役、観賞して感想を述べる方……参加のかたちはそれぞれです。

日に日に変わっていく壁を見て、季節を感じること、自分の証が残っていること、皆と一緒にいることを感じる事ができればと思っています。

これからも、作業療法室を訪れた方々の“心が動く”仕掛けを考えていきます! (担当 OT: 齋藤由香里)